

## 「低侵襲寛骨臼移動術（SPO）の術前から術後1年間の跛行の調査」 について

加古川中央市民病院リハビリテーション室では、現在、入院患者さんのうち低侵襲寛骨臼移動術（SPO）が施術された患者さんを対象に以下の研究を実施しております。

この研究についてご質問がございましたら、最後に記しております【問い合わせ窓口】まで連絡ください。

### 【研究概要及び利用目的】

股関節の臼蓋形成不全においては従来寛骨臼回転骨切術（RAO）が施行されてきましたが、RAOは中殿筋を切離するなど術中侵襲が大きいため、術後のベッド上安静期間が長くなり、入院期間が長くなっていました。

当院ではベッド上安静時間が短く、術後の筋力等の回復期間も短縮するといわれている低侵襲寛骨臼移動術（SPO）が施行されています。術後は段階的に荷重を設定し、荷重量に応じて歩行練習と下肢のレジスタンストレーニングを実施しています。全荷重開始の歩行の際に跛行が出現する可能性もありますが、SPOを実施している施設が限られているので、術後の経時的な跛行の推移についての報告は少なく、回復の実態は明らかではありません。今回、SPO術後の跛行の消失時期を明らかにし、当院で実施している術後理学療法でのレジスタンストレーニングの実施法の修正・再検討することを目的に調査を行います。

### 【研究期間】

研究期間：院長許可日～西暦2022年10月30日

### 【取り扱うデータおよび試料・情報の項目】

研究対象期間：2018年4月1日～2021年3月31日の間にSPO手術が施行された患者さんのデータ。

患者情報：身長、体重、年齢、性別等

測定データ：術前から術後1年間（術前・術後3ヵ月・4ヵ月・6ヵ月・12ヵ月）の跛行の記録

### 【個人情報保護の方法】

プライバシーの保護に配慮するため、患者さんの試料や情報は直ちに識別することができないよう、仮名加工情報表を作成して加古川中央市民病院の6階リハビリテーション室の鍵のかかる保管庫で管理します。

研究成果を報告する時も個人が識別されないように行います。この研究に参加していただいた患者さんの個人情報については、本研究に関わる全ての研究者が守秘義務を順守するように徹底いたします。個人情報を外部機関へ提供することはありません。患者さんの個人情報は責任をもって保管します。

### 【データおよび試料提供による利益・不利益】

利益：通常診療の情報を用いており、データをご提供頂いた患者さんの個人には特に利益になるようなことはありません。

不利益：カルテからのデータのみ利用するため特にありません。

#### [登録終了後のデータおよび試薬の取り扱いについて]

本研究において取得したデータ等は、研究期間中は古川中央市民病院において厳重に保管いたします。研究終了後も少なくとも本研究の終了報告日から5年を経過した日または本研究の結果の最終の公表について報告された日から3年を経過したいずれか遅い日までの期間、当院内のデータベース内のみで管理し、プリントアウトや外部持ち出しは行いません。患者さん及びその家族等から参加拒否または同意撤回があった場合には、その方に関するデータはすみやかに廃棄します。

#### [研究成果の公表について]

研究成果は論文や学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

#### [研究へのデータ使用の取りやめについて]

いつでも可能です。患者さんご自身のデータを用いたくない場合には、下記【問い合わせ窓口】までご連絡ください。取りやめの希望を受けた場合、それ以降患者様のデータを本研究に用いることはありません。しかし、同意を取り消した時点ですでに研究成果が論文などで公表されている場合は廃棄できません。

#### [問い合わせ窓口]

この研究の問い合わせだけでなく、患者さんご自身のデータが本研究に用いられているかどうかお知りになりたい時や、患者さんのデータの使用を望まれない時など、この研究に関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせください。

加古川中央市民病院 診療支援部 リハビリテーション室  
研究責任者名 筧 達也  
連絡先：079-451-5500